

東京 IPO 特別コラム

2017年2月16日 Vol.67

IPO銘柄の変動パターンを読む

2月に入ってからNYダウはトランプ大統領の政策期待から上げトレンドが続いており、既に2万600ドル台までの上昇を見せています。かつての日本株が第2次安倍内閣の誕生でアベノミクスが打ち出され想定以上の上昇トレンドを描いたのと同様、新たな異色のリーダー誕生を米国及び世界は極めてポジティブに捉えているようです。まだ正式誕生して1カ月なのでこの状況がいつまで続くのかという視点で投資家の皆さんは眺めておられるのかも知れませんが、フリン大統領補佐官の辞任で相場が急落するのではと思われた投資家が多いのかも知れませんが、引き続きNYダウは強く、むしろ上昇ピッチが速まっているようです。これに対し為替の変動に影響を受けやすい日経平均に代表される日本株はやや頭重い展開が見られますが、安倍・トランプ会談が実施された後の強固な日米関係が確認された後だけに方向性は見えており、早晚日経平均の2万円台乗せも期待されるようです。

日経平均の高値は2015年6月の20952円で現状はその1500円下の水準にあります。実はドルベースの日経平均は170ドルとなりその際の水準(約167ドル)を抜けているほか、JASDAQ指数や東証2部指数などの中小型株指数は高値を既に抜け上値を追い続けている状況が見られます。マザーズ指数は創業ベンチャー株の乱舞が見られた昨年高値水準をまだ抜けていませんが、堅調な上昇傾向が続いています。直近の2年間にIPOした銘柄の多くは堅調な推移を辿りつつあり、本コラムでも過去取り上げたことのあるリンクバル(6046)が今9月期第1四半期の進捗率の高さと8万株の自社株買いで株価が公開価格(2400円)水準にまで上昇。水回りの緊急駆け付けサービス事業を展開するアクアライン(6173)も先般公開価格(1250円)を上回るなど、業績が堅調で出遅れ気味の銘柄やAI、IoT関連などのテーマ銘柄を中心に上昇トレンドが見られます。

IPO銘柄の上場後の変動パターンはそれぞれの銘柄ごとに異なりますが、多くは上場時に賑わって高値をつけてもその後はしばらく低迷するケースがあります。リンクバルやアクアラインはこうしたパターンの銘柄で、上場後の1年間の株価が低迷した時期を経ての上昇が見られます。投資家の皆さんにとってIPO後の企業から発信される情報を吟味しながら変動パターンを読んでいくことがリターンを高めるポイントになるのかも知れません。過去のIPO銘柄をチェックすると当初は個人投資家に認知がされない中で、上場時に比べ株価が低落してしまうケースも多いですが、徐々に認知度が高まると評価され直すこととなります。特に上場後の業績の下方修正があったりすると投資家はネガティブに見てしまいます。それが先行投資など前向きな理由であっても減益や業績伸び悩みが伝えられると売りの行動に出がちです。短期投資家に対して長期投資家はその内容を吟味しながら割安感の出るタイミングで買い始めることとなります。IPO企業はできるだけ多くの投資家に積極的にアピールして長期スタンスでの投資を

東京 IPO 特別コラム

促すべきではありますが、自社の業績をまずは向上させないとなりません。IPO銘柄は様々ですが、その中には個性ある優れた経営者に率いられ、ユニークなビジネスモデルを展開する成長株も含まれている可能性もあります。投資家の皆さんはぜひ成長性の高いと思われるIPO銘柄を吟味して頂き、IPO後の変動パターンを読んで投資成果を高めて頂きたいと思います。

年初からの堅調な相場展開の中で今年もIPOが本格化して参ります。既に本日の日宣(6543)まで3銘柄がデビュー。シャノン(3976)の初値は公開価格1500円の4.2倍となる6310円となり人気を集めたほか、安江工務店(1439・公開価格1250円)は初値1300円で比較的穏健な株価でスタート。住宅リフォーム専業で初の上場ということや低PER、今期40円配当実施ということもあってIPO後は比較的底堅い展開が見られます。2月23日には3社が同日に上場。3月も10社のIPOが予定されるなど、いよいよIPO春相場が本格化して参ります。その中には話題の糸井重里氏が率いるほぼ日(3560)や主婦活用型のBPOビジネスを展開する、うるる(3979)が含まれ、人気を集めそうです。本コラムでも皆さんとともに今後もIPO銘柄の値動きをチェックして参りたいと思います。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)